お祖師さまの教えを正しく受け継がれた先師先聖物語 第9回

前回お話しした日像上人は、お祖師さま（日蓮聖人）のご命で初めて天皇さまのいらっしゃる京都に御題目のご信心を弘められたんだけど、そのお弟子となってさらに京都や中国地方に御題目を弘められたのが「大覚大僧正」というお方なんだ。今回は、大覚大僧正のそのご生涯と、お祖師さま、日朗上人、日像上人に「菩薩号」の称号が天皇さまから贈られたいきさつをお話するよ。

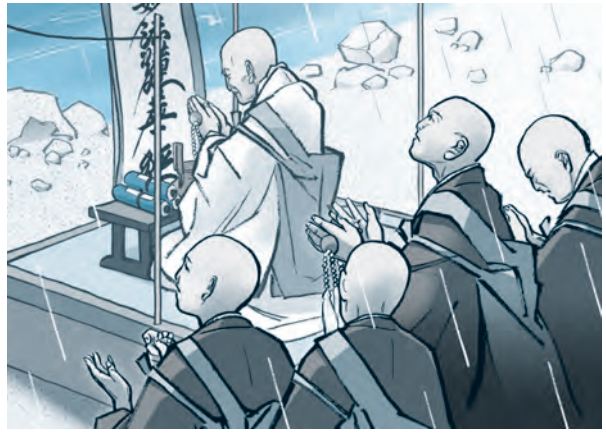
大覚大僧正①

「大覚大僧正」は永仁五年（一二九七）に生れ、幼名を月光麿といい、父親は摂政（幼少や病弱な天皇の代理として国の政治を行う者）の近衛経忠であるといわれているんだ。

父親に関しては、後醍醐天皇の第三皇子「恒性親王」ともいわれるんだけど、どちらともハッキリしないのが実情なんだ。何れにせよ「高貴（身分・家格などが高く貴いこと）の出身」であることは間違いないんだよ。

幼少より嵯峨（京都）の大覚寺というお寺に入り、出家して僧侶としての道を歩まれたんだ。十七歳の時、京都北野天満付近で辻説法（道ばたに立ち、通行人を相手に法を説くこと）をされる日像上人と出会われたんだ。

日像上人の跡を継ぎ勅願寺（国家の平安や皇室繁栄などを祈願するお寺）である「妙顕寺」の第二世住職になられた



京都桂川のほとりで「雨ごい祈祷」をされる

大覚（大僧正）は七日間連続で日像上人の辻説法を聞いたんだ。そのみ教えにとても感動した大覚は、修行していた大覚寺を抜け出し日像上人のお弟子となるんだ。そして、新たに「妙実」という名前を授けられたんだ。

大覚（妙実）は、京都で「最初の御題目のお寺」となる「妙顕寺」をお師匠（日像上人）さまが建てられる時、お師匠さまの手足となりお手伝いし支えられたんだ。そして、京都の町の人々に御題目のご信心が弘まるようにと、懸命にご奉公に励まれたんだ。

また、畿内（京都に近い国々。山城・大和・河内・和泉・摂津の五ヵ国）や瀬戸内諸国にも布教活動を広げられて、これらの地方にはじめて御題目の尊いご信心のみ教えを伝え、各地にたくさんのお寺を建てられたんだ。（瀬戸内諸国の布教の様子は詳しく来月号で紹介するね）

興国三年（一三四二）十一月、大覚（妙実）はお師匠さまがお亡くなりになられると、その跡を継ぎ勅願寺（国家の平安や皇室繁栄などを祈願するお寺）である「妙顕寺」の住職になったんだ。

大覚大僧正の御尊像（實相寺蔵）桂川のほとりで大覚大僧正は雨ごい祈祷をしたが、その祈祷の場所跡が實相寺（京都上鳥羽）といわれている

日蓮・日朗・日像上人に「菩薩号」が

延文三年（一三五八）、京都の町が旱魃（雨が長く降らず農作物に必要な水が無くなること）にみまわれた時、大覚（妙実）は天皇のご命令で「雨ごいの祈祷」（雨が降るように祈る）をしたんだ。すると、他の宗派の僧侶がいくら祈っても雨が降らなかったのに、たちまち雨が降り出したんだね。

この雨を降らせた功績（立派な働き。手柄）により後光厳天皇から、日蓮聖人には「大菩薩」、日朗上人と日像上人には「菩薩」の称号（呼び名）が贈られ、大覚自身は「大僧正（僧の最高位）」の位に任じられたんだ。以後、大覚（妙実）を「大覚大僧正」とお呼びするようになったんだ。

妙顕寺の第二世住職となり、京都を中心に中国地方にまで御題目のご信心を伝えられた大覚大僧正。そのご生涯でおよそ四十ヵ寺のお寺を建てられ、貞治三年（一三六四）四月三日、六十八歳でご生涯を終えられたんだ。